

<p>デュッセルドルフ日本クラブ 講演資料</p>	<p>第179回〈実りあるドイツ生活をおくる為に〉 防犯対策について(概要)</p>	<p>平成25年9月3日 講師:村山領事</p>
-------------------------------	--	------------------------------

◎ 2012年中のドイツにおける一般犯罪の発生状況

- 独全体の犯罪認知総件数約600万件で、日本の4倍以上犯罪が発生
- 各州別認知件数では、1位がノルトライン・ヴェストファーレン（NRW）州
- 犯罪発生率（人口10万人当たりの認知件数）は約7000件で日本の約7倍
- 人口20万人以上の都市別では、デュッセルドルフ市がフランクフルトに次ぐ2位、このほか、3位のケルン、5位のドルトムントなどNRW州内の都市が軒並み上位にランクイン
- 暴力犯罪は減少傾向も、殺人は日本の約2倍、強盗は約1.3倍発生
- 侵入盗が急増、特に東欧諸国の窃盗団による空き巣が増加
- インターネット関連の犯罪が増加

◎ 2012年中のNRW州における犯罪発生状況

- 犯罪発生件数約152万件で東京都の約9倍の犯罪が発生
- 強盗や傷害など粗暴犯の発生件数が増加。特に空き巣の発生件数が1995年以来で最多を記録

◎ デュッセルドルフ市中心部（当館周辺地域）の治安情勢

- デュッセルドルフ市全体で昨年中約8万9000件
- 市中心部のうち、総領事館周辺地域は、アルトシュタット周辺とともに警察の重点警戒地域。
- 近年は、路上犯罪、特に路上強盗と車上狙いが増加

◎ オーバーカッセル周辺（Oberkassel、Niederkassel、Loerick、Heerdt）の犯罪情勢

- 昨年、空き巣集団を一斉検挙した結果、オーバーカッセルだけで前年比約3割空き巣の発生件数が減少。また、スリ集団の検挙により、スリの件数も減少。

在留邦人の身近で多数の犯罪が発生しており、「デュッセルドルフは、日本人が多いし、日本語が通じるし何となく安心」という安易な安全意識・日本と同じ生活感覚では犯罪に巻き込まれる可能性が高い。日本以上に高い防犯意識が必要。安全確保が最優先。

◎ 被害事例と防犯対策

- スリ、置き引き、ひったくり、車上狙い等について具体的な被害事例と防犯対策を紹介
 - ～ ホテルのロビーで打ち合わせ中、脇に置いたカバンを置引きされた。
 - ～ レストランで飲食中、イスにかけていたスーツ上衣から財布と旅券を盗まれた。
 - 「携行品は最小限にまとめて体から離さない」、「貴重品は着衣内に収める」

等を徹底。

- ～ 引越し作業中、路上駐車した車両を離れた際に車内のバックを盗まれた。
- ～ 路上駐車中、運転席の窓越しに道を尋ねられた際に助手席のバックを盗まれた。
- この夏、帰国される方は、車両を離れる際や駐車中は窓を閉めて施錠を徹底。貴重品は外から見えないように工夫。
- ～ 駅構内で外国人に「服にケチャップが付いている」と声をかけられて衣服を確認している隙にリュックサックを盗まれた。
- 昨年中、NRW州内の鉄道駅、列車内での窃盗は8100件。特に夏のバカンスシーズンは発生件数が増加。不審な外国人からは速やかに離脱。
- 特に旅券は自らの「分身」と心得て、肌身離さずに所持すること。忘紛失された旅券が様々な犯罪に悪用されていることをよく認識して頂くよう依頼

◎ 空き巣対策

- 東欧諸国の窃盗団による犯行が増加→「Hit and Away」、「子連れ」
- 夜間より昼（午後3時から午後6時）に多発
- 侵入経路のほとんどが建物裏の窓かバルコニー
- 多くがドライバー等の工具を用いて数分で侵入
- 盗品は小型電化製品、現金、宝飾品等
- 犯行は夜間より昼（午後3時から午後6時）に多発し、侵入経路のほとんどが建物裏の窓かバルコニー。2階以上の上層階では被害が少ないのが特徴
- ドイツの防犯アドバイザーによれば、5分で侵入できなければ犯行を諦めるため、防犯装備の強化が重要
- 外出時は施錠を徹底する。補助鍵や飛散防止フィルムを窓ガラスに貼るなど防犯設備を強化
- 犯人は呼び鈴を鳴らして不在確認をすることが多い。居留守はせず、不用意にドアを開けないように相手を確認して訪問者に対応
- 長期不在時はテレビのタイマー機能やオートタイマー付きのライトを活用

◎ ドイツ国内のテロ情勢

- 2011年、フランクフルト空港で発生し2人が死亡した米軍に対するテロ事件や昨年12月のボン中央駅における爆発物入りスポーツバック放置事件等ドイツ国内で発生又は検挙したテロ事件を説明
- 現在のところ、我が国の権益に対する具体的な脅威情報はみられない
- ただし、ドイツ国内でのイスラム過激派等によるテロについては引き続き予断を許さない状況にある。危機意識の保持と緊急時の連絡手段の確保を依頼

以 上

